

# 稲垣 浩（いながき・ひろし）

## 1、プロフィール

大正時代、海野篁として活躍。昭和 12 年歌誌「美籠」を創刊し、主宰する。23 年に「国原」と改題し、発行を続ける。長きに渡り歌道の普及につとめた。

<生没>

1897(明治 30)年1月 26 日 ~ 1978(昭和 53)年5月9日

<代表作>

『稲垣浩第一歌集』『稲垣浩第二歌集』

<青森との関わり>

稲垣浩は三戸郡中沢村(現八戸市南郷区)に生まれた。

## 2、作家解説

大正4年相馬御風の推薦で「早稲田文学」に詩を発表して同氏主宰の「新生活」に所属。大正7年窪田空穂の門に入り「国民文学」の社友となる。昭和6年大日本歌人協会会員。昭和 12 年短歌文芸誌「美籠」(昭和 23 年に「国原」と改題)を主宰創刊、「国原」は現在に至るまで継続発行されている。東奥日報社主催青森県短歌大会選者(昭和 22 年)、北奥羽短歌協会会長(昭和 36 年)、青森県歌人懇話会副会長(昭和 48 年~52 年)として青森県歌壇を指導し、本県文化の向上、発展に貢献した。

歌碑の歌

芝はらにね転がり聞く波のおと吾をひき入れその音とする

(『稲垣浩第一歌集』昭和 48 年8月、種差公園に建立)

青森県文化賞(昭和 39 年)、八戸市特別功労者表彰(昭和 40 年)、青森県褒賞(昭和 41 年)、従六位勲五等瑞宝章(昭和 53 年)

### 3、資料紹介

○歌集『稲垣浩第一歌集』

図書

1962(昭和 37)年3月

182mm×128mm

「おれには師は1人、空穂先生あるのみ」と著者が言っていた師窪田空穂と「地上」主宰対馬完治の序文で飾られた歌集で、昭和 22 年から 34 年までの歌 518 首を収める。めまぐるしい時代の変遷の中で生活実感を第一に表現した歌がまとめられている。